

アウトリーチ等継続支援事業者向け研修

2021年12月7日(火)13:00~17:00

資料URL : <https://jmar-form.jp/jusosem2dat.html>

時間	内容	登壇者
13:00～13:05 (5分)	開会挨拶	厚生労働省
13:05～13:20 (15分)	前期研修の振り返り	事務局
13:20～13:25 (5分)	講師紹介	事務局
13:25～13:35 (10分)	ガイダンス アウトリーチとは	NPO法人ワンファミリー仙台 理事長 一般社団法人パーソナルサポートセンター 業務執行常務理事 立岡 学氏
13:35～14:05 (30分)	講演	社会福祉法人 筑後市社会福祉協議会 地域福祉係長 卜部 善行氏
14:05～14:25 (20分)	事例紹介	一般社団法人パーソナルサポートセンター 仙台市アウトリーチ支援 センター長 佐藤 圭司氏
14:25～14:45 (20分)	事例紹介	一般社団法人パーソナルサポートセンター 執行役員 仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてっぷ センター長 平井 知則氏
14:45～14:55 (10分)	休憩	
14:55～15:35 (40分)	ディスカッション	コーディネーター：立岡 学氏 パネリスト：卜部 善行氏・佐藤 圭司氏・平井 知則氏
15:35～16:45 (70分) * 休憩10分含む	ワーク	グループワーク：45分（個人ワーク含む） 発表：15分
16:45～16:55 (10分)	まとめ	立岡 学氏
16:55～17:00 (5分)	閉会挨拶・事務連絡	厚生労働省／事務局

アイスブレイク：前期研修のふりかえり

3つの自己紹介をして、お互いを知りましょう（1人3分以内）

1、自己紹介（〇〇県〇〇市の〇〇課の〇〇です）

※自治体の紹介も織り込んでみましょう。

◆ 前期研修終了時にご案内した事後課題について

2、事後課題でどのようなアクションを行いましたか。

- ・自治体で抱えている実事例を用いて支援体制の課題を整理した
 - ・関係者間で実践へ活かせるポイントを整理した
- など、実践したことを共有してください。

3、2について、大変だった点や工夫された点、新しい発見等感じたことを共有してください。



立岡 学 NPO法人ワンファミリー仙台 理事長
一般社団法人パーソナルサポートセンター 業務執行常務理事

- 2002年、ホームレスや生活困窮者支援を始め、2006年、NPO法人ワンファミリー仙台理事長に就任。
- 2011年、一般社団法人パーソナルサポートセンターを設立し、業務執行常務理事に就任。東日本大震災の被災者支援や生活困窮者支援に取り組む。NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク理事、一般社団法人居住支援全国ネットワーク理事なども務める。



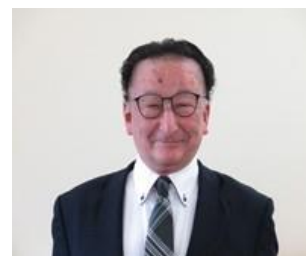
卜部 善行 社会福祉法人 筑後市社会福祉協議会 地域福祉係長

- 広島県福山市出身。（カープファン）
- 2004年から福岡県の筑後市社会福祉協議会にてコミュニティワーカーとして勤務。
- 担当業務：小地域活動全般、当事者活動支援、生活困窮者支援、福祉教育、災害ボランティアセンター業務、調査活動など。



佐藤 圭司 一般社団法人パーソナルサポートセンター
仙台市アウトリーチ支援 センター長

- 東北福祉大学卒業後、NPO法人でホームレス支援に従事。その後、一般社団法人パーソナルサポートセンターで被災者支援、生活困窮者自立支援を経験。
- 厚生労働省生活困窮者自立支援室就労支援専門官を経て、現在はアウトリーチ支援センターを担当。



平井 知則 一般社団法人パーソナルサポートセンター 執行役員
仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてっぷ センター長

- 東北福祉大学卒業後、民間企業の営業職を経て、2010年にNPOワンファミリー仙台に入職。ホームレス等生活困窮者に対する居住支援、就労支援に従事。
- 東日本大震災発災後にパーソナルサポートセンターが実施する被災者就労支援事業に無料職業紹介責任者として関わる。また、被災者就労準備支援センターわあくしょっぷの起ち上げに関与。その後、ワンファミリー仙台からパーソナルサポートセンターへ転籍。

本講義のねらい

- 重層的支援体制整備事業におけるアウトリーチ等継続支援事業についての理解を深める
- アウトリーチ支援を実際に行っているアウトリーチ実践を聞きながら、具体的なアクションを理解する
- 明日からできるアウトリーチの行動目標を立てる

聴講しながら行う作業（ワークシートへ記載）

- 「参考になったこと」を青枠に書く
- 「今の自分の地域では難しいと感じたこと」を赤枠に書く
- 「自分の思うアウトリーチ支援（※やっていたアウトリーチ含む）」を黄色枠に書く



ワークシート		
聴講しながら行う作業		
参考になったこと	今の自分の地域では難しいと感じたこと	自分の思うアウトリーチ支援（行ってきたアウトリーチ支援を含む）

記載したものを踏まえ、明日からできることを個人ワークで検討してもらい、グループ共有した上で発表してもらおう。

- 「積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること（自立相談支援事業従事者養成研修テキスト）より」
 - 様々なかたちで、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。対象者の把握だけにとどまらない。
- アウトリーチの目的別種類
- ✓ 対象者を発見・つながるためのアウトリーチ
 - ✓ アセスメントのためのアウトリーチ
 - ✓ 支援のためのアウトリーチ
 - ✓ 地域づくりのためのアウトリーチ
 - ✓ 新たな課題の種を見つけるための（声にもなっていない声段階の）アウトリーチ

聴講しながら行う作業

参考になったこと	今の自分の地域では難しいと感じたこと	自分の思うアウトリーチ支援（行ってきたアウトリーチ支援を含む）

- 自己紹介



卜部 善行 社会福祉法人 筑後市社会福祉協議会 地域福祉係長

- 広島県福山市出身。（カープファン）
- 2004年から福岡県の筑後市社会福祉協議会にてコミュニティワーカーとして勤務。
- 担当業務：小地域活動全般、当事者活動支援、生活困窮者支援、福祉教育、災害ボランティアセンター業務、調査活動など。

- ひきこもりの居場所づくりやきょうだい会や問題提起当事者のことなどなど、様々なアウトリーチの取り組みを紹介。

重層的支援体制構築推進人材養成研修
(分野別研修：アウトリーチ等を通じた継続的支援事業者向け研修)



(寄り添われたい)

私ならどんな風にアウトリーチされたいだろう

善意を押し付けないアウトリーチの方法一例

卜部善行 (筑後市社会福祉協議会 / 福岡県)

筑後市の基本情報 (2021年3月末現在)

- 人口49,300人、 ・世帯数20,167 一世帯平均 2.44人
- 65歳以上人口13,526人（27.44%）、 ・15歳未満人口6,695人（13.58%）
- 11小学校区 76行政区 民生委員児童委員79名 主任児童委員14名
- 福祉員100名 福祉相談員242人
- 温暖な気候と肥よくな土地、恵まれた水を利用して、古くから米・麦・イグサ・ナシ・ブドウ・八女茶をはじめとする農業が盛んに行われてきました



鬼滅の刃が生まれたのは筑後市だった！？

市内には「竈門神社」があり、メディアにたくさん取り上げられました。

ついでに末娘もテレビに映りこみました。

アウトリーチについて



「アウトリーチ＝家庭訪問」が全てではないと思っています。
あの手この手でまだ見ぬ当事者やその家族に近づこうとする行動
すべてがアウトリーチ（広報や学習会なども含まれる）。

私自身、家庭訪問をしているわけではありません。
カリスマ的な支援者でも何でもありません。
普通の社協職員です。

ですが、普通なりに工夫してまだ見ぬ当事者とつながろうと努力
をしています。

アウトリーチと言っても手法は
様々あります。

また、どれもアウトリーチとい
う分野からはみ出して、他分野
と関連しているというイメージ
です。

「もし私がアウトリーチされる側だったら、支援者にはどのよう
に近づいてきてほしいだろうか」。そんなことを想像しながら、
アウトリーチの手法を創造しています。

意識していること・・・

「支援（人を支えるという行動）」の捉えなおし

- ① 善意の押し付けをしない。支援者→非支援者の一方通行にならないように。
- ② 「助けてほしい！」と意思表示できる人は少ない。だから「助けて」と言わなくても、助かるような関わり方を考える。
- ③ 受援力が育まれる地域づくりの視点。「助けて」のハードルを下げる努力。
- ④ 「福祉サービス当てはめ病」に陥らない。「福祉＝幸せ」が原点。
- ⑤ アウトリーチをアウトリーチだけで考えない。狭い意味で考えない。
- ⑥ 自己責任論の払しょく。認識論的誤謬に陥らないように。抜け落ちてはいけない、「当事者は誰なのか」という視点。私たちがアウトリーチしようとしている人たちは“問題提起当事者”ではないか。



不登校を経験した青年の話。

「先生は家庭訪問をして、学校へ連れて行こうとした。でも・・・。クラスには障害者をバカにする発言が飛び交う。私には知的障害のある兄がおり、『お前の兄ちゃん、何でバカなんだ？』などと言われる。そんなクラスに、ボクは戻りたくなかった。問題なのはボクじゃない。変わるべきなのはクラスメイトだ！」

こんなこともアウトリーチかな？①

① 社協だより

全戸配布。一番身近なもの。当たり障りある広報。情報を届ける。「助けられていいんだ」という意識を届ける。

② 「看板」を掲げる

漠然と「なんでも相談していいですよ！」では、「本当に相談して良いのかなと思うのです」という住民。「ひきこもり家族交流会」の看板を掲げることで「初めて来ました」。社協とつながり、家族会になっていく。

③ 組織化活動

例) ひきこもり家族会やきょうだい会等々の組織化。組織活動。その広報。広がる仲間。

④ 家族会・当事者団体に来なくなった人へ

例) ひきこもり家族会では毎月会報を発行。欠席の方に毎月郵送し情報提供。一方通行だがつながりを持ち続けている。



こんなこともアウトリーチかな？ ②



⑤ 自己実現の応援

例) ふらっとスペースの立ち上げ。困っていることではなく、したいことを大切に。短期アルバイト雇用。

⑥ 助ける側としての関わり

例) もえもんサービスの創設。「困った」と言えない日本人。だったら、助ける側になってもらおう。

⑦ 「助けて」と言わなくてもつながれるように

「卒論のためにきょうだい会の見学をしたいです！」定例会に参加してみたら「実は私も・・・」

⑧ 既存の活動との連携

ヘルパー、包括、民生委員児童委員、福祉員・福祉相談員・・・すでに家庭訪問されている。



こんなこともアウトリーチかな？ ③



⑨ 研修会の開催

- 例) ①「依存症」を考える。ギャンブル・アルコール・ネット・ひきこもり。どのテーマで一番反応があるかな。
- ②若者サポーター養成講座。修了証を差し上げます、履歴書に書いていいですよ。

⑩ 地域での座談会等

- 1) 地域の中で困っている人がいないか、
- 2) 困っていそうな人がいた時どこにつなぐかを考える、
- 3) 誰だったら声掛けできる？を考える、
- 4) 困っている人に気づくアンテナを増やすため、
- 5) 私たちとの関係性構築のため、
- 6) 今は困っていなくてもいつか困る。その時に、気軽に相談してもらえるように。などなど。



こんなこともアウトリーチかな？ ④



⑪ 地域の子どもに近づく～子どもの貧困・孤立～

例) 夏休みこどものひろば。校区福社会と連携して、夏休み期間中に1週間限定の子ども食堂&学習支援的な活動を実施。困っていなくても来れる場所。中には、しんどい状況の子もいる。地域の民生委員等と仲良くなる。



⑫ 当事者団体と、当事者がいるところに出向く

例) きょうだい会の会員と特別支援学校の文化祭へ出店！無料喫茶室を開き、「タダでジュースが飲める！」で子どもたちをひきつけ、親に連れられてきている“きょうだい児”たちに近づく。ちなみに、きょうだい児の多くはヤングケアラーである。



⑬ 地域と連携したチラシ配布・回覧板活用

地域の中にひきこもりの人がいる。でも言いにくいよね。だったら全員に情報提供したらいいんじゃない？

こんなこともアウトリーチかな？⑤

⑭ 調査活動

民生委員と連携した一人暮らし高齢者実態調査。民生委員さんの家庭訪問の機会が増える。

⑮ コロナ特例貸付相談者支援×地域福祉にかかる調査

貸付申請に至った方の今を調査しよう。協力してくれる方にはお米をプレゼント。

⑯ 困る前からつながる

例① 「ゴミ出ししてほしい」と視覚障害者

例② 「配食サービスを利用したい」と地区社協会長

例③ 「精神障害の兄のことで相談したい」と区長。

例④ 「家まで車イスを持ってきて！」とボウ連の会員。

元々知っているからこそ相談される。



こんなこともアウトリーチかな？⑥



⑰ 社協に来るハードルを下げる取り組み

ひとり親家庭のためのフードパントリー＆グリーンフードパントリー。食品や野菜をあげることだけが目的じゃない。社協に来るハードルを下げる。

⑱ 相談支援の中から

主訴の周りも見てみる。例) 「義母の介護が大変で…。うちは息子のこともあるから・・・」筋ジスの息子が引きこもっていることが分かる。

⑲ ボランティアだからできること

(お勧めはしませんが) 「社協としてできないけれど、個人としてはボランティアとして関わります」という事例も割とある。ボランティアとしての方が距離感が近まる感じがするのは私だけ？



私ならどんな風に寄り添ってもらいたいだろう



次女がお腹にいるとき、医者に「水頭症の可能性がある」と言われた。ショックだった。

今まで障害者福祉に携わっていたはずなのに。色々な当事者と出会い、交流を重ねていたはずなのに。いざ我が子に病気・障害があるかもしれないとなったとき、ショックを受けた自分が本当に情けなかった。私は大変な差別心を持っていたのではないか。とんでもない偽善者ではないか。罪悪感もいっぱいだった。

そのことをきょうだい会で打ち明けた。「ト部さん、それ悩んでいいんですよ」と言われた。

仲良くしてもらっている、脳性麻痺の障害のある方にも打ち明けた。「人間も生き物なんだから、元気に生まれてほしいと願うのが当たり前だよ」と言われた。

本当に救われた。**何かの当事者である人の言葉には、誰かを支える大きな力がある**と思った。

ある医者是这样言った。「水頭症の場合はここでは産めません。大学病院に行って、こういう治療ができるところで・・・」

別の病院の医者是这样言った。「不安な年末年始でしたね。心配ですね」

私たち夫婦は、高度な医療設備があるかどうかではなく、私たちの**不安な気持ちに寄り添ってくれる病院で産みたい**と思った。

誰しも、このような経験があるのではないだろうか。実は私たちも、誰かに寄り添われ、知らない間に支えられているということがある。それに倣い、私たちも気持ちに寄り添える人でありたい。（結果的には、次女は水頭症ではありませんでした）

最後に～弱さを認める強さ～

誰かに支えられた経験は、次の誰かを支える大きな力になる。だから、

私たちも支えられ上手になろう。

支えられる経験を増やそう。

困ったときには困ったと言おう。

しんどいときは、しんどいと言おう。

弱さを認める強さを持とう。

私たち自身が受援力を発揮しよう。

その姿を子どもたちに見せていこう。

その積み重ねが受援力の育まれる地域づくりにつながるし、ひいてはアウトリーチしやすい地域づくりにもつながっていくと思っています。



2021年7月号 「弱さを認める強さ」

長年お世話になっていたKさんが永眠されました。末期がんでした。

Kさんには視覚障害があり、小学校での福祉教育のゲスト講師として、優しく子どもたちに語りかけてくださいました。この活動を「見えないことは不便だけど不幸ではない。色々なことにチャレンジして、お互いしっかり生きていこう。そんなことを子どもたちに伝えたい」と話しておられました。

一方で、代筆やゴミ出しなどを周囲に頼まれたり、パソコンの扱い方などを尋ねに來られました。明るい性格の持ち主で、「ちょっと手伝ってほしいことがあるんだけど」と声をかけられたものです。そして、闘病中には終活も進められ、「協力してほしい」とお願いされたりもしました。

それは、まさに「自立した姿」に見えました。自分の弱さを認め、他者を頼りながら支え合って生きる姿こそ、自立なのだろうと思います。

最後は「医療に役立ててほしい」という生前の希望通り、献体としてご自身の体を提供されました。

弱さを認める強さを、Kさんに学びました。出会えて感謝です。いってらっしゃい、Kさん。合掌。
(善)

2021年1月号

「子どもを育むヒント・魅力的な大人になるヒント」

「大人のダメな一面も見せてほしかった」

本号でも掲載した主任児童委員の研修会で、不登校経験者が話されました。

「学校に行けない、何で私はできないの?とってしてしまう。そんなネガティブな感情を、完璧に見える人に話すのは勇気がいる。むしろ、相手のダメなところが分かると、話しやすくなる」

「当時学校の先生からは『頑張りなさい』『このままじゃ素敵な大人になれないよ』と言われていた。でも、『大人になってからもできないことはあるよ』と大きな器で接してほしい」と話は続きました。

確かに、大人のダメなところを見せると、子どもは少しホッとすることもかもしれない。本心を話すハードルが下がるかもしれない。「助けて」と言える力、「受援力」が育まれるかもしれない。

そして、自分の弱さやダメなところを見せてくれる人は、人間味があふれ魅力的に見える。

冒頭の言葉は、地域や家庭で子どもを育むヒントでもあり、魅力的な大人になるヒントでもあるのかもしれないね。
(善)

2020年8月号

「助けてもらう姿を子どもたちにみせてほしい」

ある短期大学で「社会人としての自立とは？」をテーマに、お話をさせていただく機会をいただきました。

20歳くらいの学生たちに「自立とは何だと思えますか？」と尋ねたところ、「誰にも頼らずに1人で生活できること」といった回答が多数。

そこで、「それも大事だけど、それって、自立じゃなくて『孤立』にならん？」と尋ねると、学生たちは考え込んでいました。

その後、「誰かの助けを受け入れながら生きていくのが自然な姿なのだから、『助けて』と周りに言えることが自立だし、支え合いが育まれる社会が自立しやすい社会なんだよ」と、お話をしました。

そして、「助けてもらう姿を子どもたちに見せてほしい」とお願いも。大人たちは意外と子どもたちに「弱さ」を見せていない。一方で、子どもたちは「困っている人を助けよう」という支える側の姿しか見えていない。

自身の弱さを認め、誰かの支えを受け入れる姿を見せることが、ひいては子どもたちを「自立できる人間」に育てていくことなのかもしれません。

各地で災害も多発しています。周りの助けを受け入れることが、生きていく上でとても大事だと思っています。（善）

2018年7月号 「支えられるための学習」

小学3年生の子どもたちに、「認知症」の授業をする機会をいただきました。子どもたちに、どう伝えようか考える中で、そこに難しさを感じました。「認知症の人を理解しよう」という一面的な授業で良いのか、と。

認知症の方を対象者化し、単に「理解しましょう」「支えてあげましょう」という授業では、「認知症の人＝社会的弱者（かわいそうな人／自分とは違う人）」という認識をつくり上げてしまうのでは、と思ったのです。

同時に、「子どもの貧困」が広がっている中で、苦しい状況の子どもたちが目の前にいるかもしれない。そんな中で「誰かを支えましょう」「理解しましょう」とだけ言うのは、酷なのでは…とも。つまり、そこにいる子どもたちは、すでに何かの当事者かもしれない。また、いつかは誰もが何かの当事者になる。これは前提です。

そう考えると、「どうやったら助けてもらえるか」「どうしたら『困った』と言えるか」という、
「支えられるための学習、も進めるべきでは…と思うに至りました。支えられることも含めて、
「支え合い」なのでありますから。 （善）

- 自己紹介



佐藤 圭司 一般社団法人パーソナルサポートセンター
仙台市アウトリーチ支援センター長

- 東北福祉大学卒業後、NPO法人でホームレス支援に従事。その後、一般社団法人パーソナルサポートセンターで被災者支援、生活困窮者自立支援を経験。
 - 厚生労働省生活困窮者自立支援室就労支援専門官を経て、現在はアウトリーチ支援センターを担当。
- ホームレス支援から仮設住宅の見守り被災者支援、生活困窮者自立支援、厚労省就労支援専門官となり、アウトリーチ支援センター長の経験から考えるアウトリーチの取り組みを紹介。

令和3年度

重層的支援体制構築推進人材養成研修

分野別研修：アウトリーチ等を通じた継続的支援事業者向け研修
～事例紹介～

一般社団法人パーソナルサポートセンター
仙台市生活自立・仕事相談センター わんすてっぷ
アウトリーチ支援センター

ホームレス支援

- 夜回り
- 炊き出し
- 巡回相談
- 第2種社会福祉事業による無料低額宿泊所の生活支援

被災者支援

- 自死、孤独死を防止する目的で見守り訪問
（プレハブ仮設住宅・借上げ公営住宅）
- 関係機関へのつなぎや同行支援
- コミュニティーの形成
- 仮設住宅からの転居支援

■ 応急仮設住宅への見守り事業の実績

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	合計
対象世帯	741 世帯	644 世帯	492 世帯	486 世帯	402 世帯	136 世帯	13 世帯	—
訪問件数	55,791 件	60,123 件	18,577 件	14,545 件	5,891 件	1,553 件	92 件	156,572 件
面談件数	30,961 件	38,396 件	14,392 件	10,271 件	3,170 件	649 件	28 件	97,867 件

平成25年度から下記のとおり5段階で緊急度を設定し活動を行っている

- ・緊急度A・・・差し迫った危険、危機的状況があり、行政職員及び専門機関による緊急の介入、支援が必要な世帯。
- ・緊急度B・・・Aほど差し迫った状況はないが、困難な課題に直面しており、中心となる支援者がおらず孤立しているなど、行政職員を中心とした継続的な支援が必要な世帯。
- ・緊急度C・・・おおむね生活が安定しており、直ちに支援の必要はないが、今後支援が必要となる可能性があり、見守りが必要な世帯。
- ・緊急度D・・・当面支援の必要がないと考えられる世帯。2週に1回程度訪問し行政からの情報提供や、生活、健康面の確認を行う。
- ・緊急度E・・・調査票が返送されなかったり、訪問しても不在であるため、生活状況が不明の世帯。

平成29年10月にて見守り対象世帯は解消となった。

累計見守り訪問回数は

156,572件

累計面談件数は

97,867件

生活困窮者支援

保健師からの相談

- ・50代男性独居 衰弱状態だが支援を一切拒否 救急搬送も拒否
- ・支援者を増やしたい

保健師と訪問

- ・食糧支援も拒否
- ・一日おきに水とおにぎりを持って訪問
- ・救急搬送に同意 入院

保健師・ケースワーカーとカンファレンス

- ・定期的に病院訪問
- ・ライフライン復旧と支払い代行

アルコール依存の治療のため転院

- ・保健師、ケースワーカー、病院MSWとカンファレンス
- ・督促状などの整理
- ・庭の草刈り

アウトリーチの目的別種類

- ①対象者を発見・つながるためのアウトリーチ
- ②アセスメントのためのアウトリーチ
- ③支援のためのアウトリーチ
- ④地域づくりのためのアウトリーチ
- ⑤新たな課題の種を見つけるための（声にもなっていない声段階の）アウトリーチ

アウトリーチ等継続支援に求められること

- ・焦らず関わり続けること
- ・「支援」を意識しない
- ・自分の時間感覚を忘れる
- ・けど、いつでも動けるように想定しておく（そのためには関係機関との情報共有）

- 自己紹介

平井 知則 一般社団法人パーソナルサポートセンター 執行役員
仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてっぷ センター長



平成 5年 東北福祉大学卒業後、民間企業で主に営業職として従事
平成22年 NPO法人ワンファミリー仙台に入職
ホームレス等生活困窮者に対する住居支援、就労支援に従事
平成23年 東日本大震災発災後にパーソナルサポートセンターが実施する
被災者就労支援事業に無料職業紹介責任者として関わる。
平成24年 被災者就労準備支援センターわあくしょっぷの起ち上げに関与。
平成25年 ワンファミリー仙台からPSCへ転籍
平成26年 仙台市住まいと暮らしの再建サポートセンター センター長
平成27年 仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてっぷ センター長

- 主に市民協働の観点やアンケート結果に基づく、連絡のとれない人への無駄足の様に見えるアウトリーチの取り組みを紹介

アウトリーチとは？

- 「積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること」
(自立相談支援事業従事者養成研修テキストより)
- 様々なかたちで、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。対象者の把握だけにとどまらない。

アウトリーチとは、積極的に 何をすること？

積極的に 対象者の居る場所に 出向いて

働きかけること

積極的に「出向くこと」

対象者に対する積極的な訪問

アウトリーチとは、対象者に対する積極的な訪問。

アウトリーチとは、積極的に 何をすること？

積極的に 対象者の居る場所に出向いて
働きかけること

積極的に対象者に『働きかけること』

その方法として、

相談者を待つばかりではなく、対象者の居る場所に出向いていく。

アウトリーチとは、積極的な対象者への働きかけ（アプローチ）。

『訪問』は、対象者に会うための手段。

アウトリーチとは？

- 「積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること
- 様々なかたちで、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。対象者の把握だけにとどまらない。



**様々なかたちでサービスと情報を届けるための
積極的な働きかけ方**

まだ出会えていない対象者に会い、

必要なサービスと情報を届けるための

地域にあった働きかけ方について考える。

潜在化して気づくことが出来ていない

相談者に出会うための2つのアプローチ

1. 「積極的なアプローチ」

困っている対象者が存在している事に気づきつつも、まだ出会えていない相談者につながるために、自宅や施設など相談者が集まりやすい環境、相談しやすい環境に積極的に出向くアプローチ。

2. 「アプローチの手数の多さ」

地域に存在していることに気づくことが出来ていないために出会えていない相談者に対して、つながりやすい環境を数多く準備してアプローチを試みる方法

1. 「積極的なアプローチ」

- 家庭訪問による相談
 - 認知症が疑われる高齢者への対応
 - 家庭訪問することにより、生活上の課題を見立て対象者の社会的孤立という主訴に気づく
- 訪問による食糧支援
 - 電話による攻撃性のある相談者と食糧支援により
 - 関係性を構築することで相談者の本当の主訴にたどり着けた事例
- 入院中の病院へ出向いての相談
 - 社会的に孤立した末期がんの相談者を看取った事例
- 支援につながりやすい環境を作る工夫
 - ・ 支援対象地域が広い、公共交通インフラが整っていない地域への出張相談の実施
 - ・ 複合的な課題を抱える対象者に対して複数の専門家が一度に相談ができるなんでも相談会の実施

1. 「積極的なアプローチ」

- 企業支援、協力事業への出向いての相談

連携企業の概要

〇〇協同組合

- 所在地 : 宮城県
- 事業内容 : 資源ゴミの選別と分別回収事業

企業と自立相談センターとのつながり

- 自立相談支援事業
 - ・ 無料職業紹介事業所の求人登録事業所
 - ・ 求職者の紹介
- 就労準備支援事業
 - ・ 職場見学プログラム受入れ
 - ・ 職業体験プログラム(作業体験)参加者受入れ

企業の悩み

新卒で採用した社員が指示通りに仕事をせず、困っている。

人事担当者から聞取った状況

今年の4月に高校新卒の男性2名(Aさん、Bさん)を正社員として採用したが、Aさんの方が指示をしても働かず、現場の同僚をイラつかせている。「なぜ指示通りに仕事をしないのか」と質問しても、はっきりとした回答がない。本人にとっても現場全体にも良い影響がないので、どう指導したらいいのか悩んでいる。

● 企業支援、協力事業への出向いての相談

面談時の 対応

Aさんと作業現場の状況をていねいに聞き取り、今後の方向性を確認。

面談後の 対応

電話で様子を伺い、先方を訪問。面談で、Aさんのその後と新たなBさんの問題について共有。

面談時の 対応

企業側の新たな課題について共有して、今後について一定の方向性を確認。

面談後の 対応 ①

面談の翌日、Bさんの生活リズムを確認するため、支援で活用しているツールを提供。

面談後の 対応 ②

面談の1週間後、様子伺いで電話。その際の話から、改めて先方と調整し面談を実施。

保護者との 面談対応

Bさんの保護者(母親)・人事担当・Bさんの直属の上司・当センターの支援員2名の計5名で面談を実施。

保護者 面談後の フォロー

Bさん母親との面談の1週間後、Aさん、Bさんの両名について、電話で企業側に状況を確認。

● 町内会が実施する地域住民に対する緩やかな見守り支援との連携

ハーブ栽培を核に 地域包括ケアシステムのスムーズな構築を目指して

【実施団体】



Y地区社会福祉協議会

事業総括、団体間の連絡調整



Y連合町内会

各単位町内会の取りまとめ



日本赤十字Y地区奉仕団

老人クラブ連合会等の取りまとめ及び連絡調整

実行委員会加入

東北工業大学、地域包括支援センター、
民生委員児童委員協議会 など

【サポートチーム主担当】

一般社団法人 パーソナルサポートセンター

【課題】

- Y地区は、市内でも比較的高齢化率が高く、30%を超えている。
- 高齢者のみの世帯が多く、近い将来支援を必要とする独居高齢者世帯がさらに増えることが予想される。

【目的】

- ハーブを通じて、地域の団体や住民、近い将来支援を必要とする高齢者同士が、互いに顔の見える関係を構築する
- 昨年度の取り組みを踏まえながら、持続可能な取り組みに向けた検討をする
- 活動のロゴマーク作成等により、活動に参加しているメンバーの連帯感を高め、取り組みをさらに地域に定着させる

2. 「アプローチの手数の多さ」

既に実施している支援と連携・連動したアプローチ

● 社会的養護アフターケア事業との連携

特定非営利活動法人 チャイルドラインみやぎとの共同事業体として、平成28年7月に仙台市子供未来局から受託。本年6月に同事業の公募があり共同体としての提案が採択され、平成29年7月から平成32年3月まで複数年の契約にて『仙台市児童養護施設等入所児童就業支援・アフターケア事業』を、受託した。

「仙台市児童養護施設等入所児童就業支援アフターケア事業」概要

1. 事業の目的

児童養護施設等入所児童が将来経済的に自立した生活を営めるよう、就業支援、退所後のアフターフォロー体制を構築し、社会的自立に向けた支援を行う。

2. 事業の対象者

仙台市所管の児童養護施設等の入所児童及び退所した方、また、仙台市による里親委託児童及び里親の養育から自立した方。年齢はおおむね中学生から25歳位までの方。

2. 事業概要

1)施設等入所児童に対する就業支援

①ソーシャルスキルトレーニング(以下 SST)の実施 ②就労支援の実施

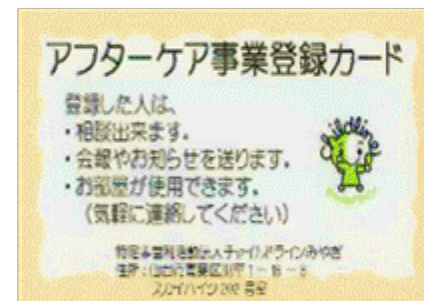
2)施設等を退所した児童に対するアフターケア

①失業した者への実践的就職支援による再就職支援

②電話相談 022-341-7062

③来所相談 ④退所者の交流サロン ⑤退所者交流会 ⑥情報提供

3)会報発行



「ソーシャルスキルトレーニング」実施



1. 生活習慣 「SNS・インターネット」
2. 職業・金銭教育 「職業を考える」「生活費・家計管理の仕方」
3. 職業教育 生活習慣 社会人としての生活「ビジネスマナー」



2. 「アプローチの手数の多さ」

既に実施している支援と連携・連動したアプローチ

- 就労決定者へのアンケート調査

就労決定による税金・保険料収納効果を検証することを目的に就労支援により就労が決定した211名に対して、世帯状況、就労状況、収入、納税・社会保険料等についてアンケート調査を実施。

回答があった79名のうち9名は無職であるが、70名が現在も就労継続中であり就労定着率が88.6%と非常に高いことが分かった。

- 転居支援後のアンケート調査

居住支援法人が実施した支援により転居した相談者に対して転居後の住まい方に係るニーズを把握するために、転居後の経済状況、地域社会との関わり等についてアンケートを実施。

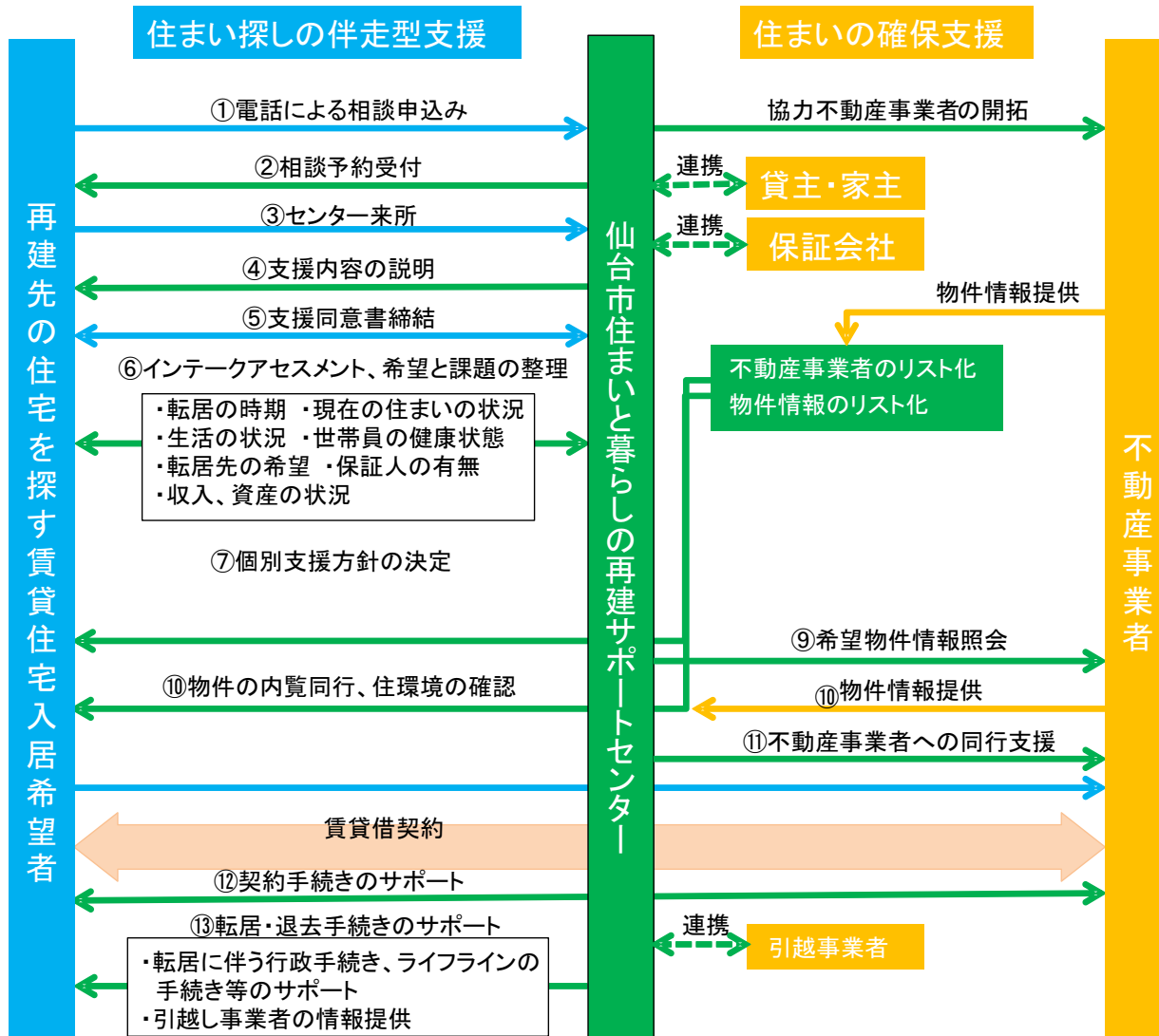
単身世帯の対象者の多くが孤独死のリスクを感じている等、転居後の継続的な関わりや地域社会との関係性構築のニーズが高いことが明らかになった。

- コロナ禍における機関、制度と関連した支援
社会福祉協議会へ出向いての合同面談の実施、生活困窮者自立支援金センターの開設等々

2. 「アプローチの手数の多さ」

社会に足りていない、手の届いていない課題を探す、気づく

- 被災者転居支援センター ～住まいの再建に向けた伴走型支援～



● 被災者転居支援センター ～住まいの再建に向けた伴走型支援～

● 支援対応数内訳

	2015												2016												2017			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
新規相談件数	17	15	23	9	11	11	11	13	7	17	29	22	20	20	9	4	4	3	3	6	2	2	2	6	266			
支援同意件数	8	11	10	11	9	7	10	11	4	16	29	22	18	18	7	4	4	3	2	4	2	2	2	6	220			
転居決定件数	0	1	0	2	3	4	5	2	7	8	7	16	20	26	28	18	13	6	2	0	1	3	3	4	179			
延べ相談件数	21	26	36	69	55	148	164	176	192	182	231	223	302	356	347	213	210	137	97	75	90	131	157	167	3805			
アフターフォロー件数													32	28	56	47	50	42	45	38	39	21	24	32	454			

● 住居形態別転居決定件数と内訳

転居前住居形態	転居決定件数	割合	転居後住居形態							
			民間賃貸	市営	県営	UR	復興公営	福祉的施設	その他	市外
プレハブ仮設	42	23%	29	2	0	0	8	0	3	0
	転居後住居形態の割合		16%	1%	0%	0%	4%	0%	2%	0%
借上げ民間賃貸	100	56%	85	2	0	2	6	0	5	0
	転居後住居形態の割合		47%	1%	0%	1%	3%	0%	3%	0%
借上げ公営住宅	33	18%	22	2	0	1	4	0	4	0
	転居後住居形態の割合		12%	1%	0%	1%	2%	0%	2%	0%
その他	4	2%	3	0	0	0	1	0	0	0
	転居後住居形態の割合		2%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%
合計	179	100%	139	6	0	3	19	0	12	0
			78%	3%	0%	2%	11%	0%	7%	0%

● 生涯現役生きがい就労支援センター

高齢者の就労的居場所を提供する PSCの生涯現役・生きがいプログラム

エンジョイサークル活動 手芸クラブ

本年度から生きがいプログラム参加者が主体的に集まるサークル活動を支援。手芸サークルでは靴下を使った人形作りに挑戦している。



エンジョイサークル活動 料理教室

エンジョイサークルの第2弾企画として料理教室を開催。元肉屋さん経営の男性が調達したお肉や、PSCのソーシャルファームで収穫された野菜を使って夏野菜カレーなどを料理。



生きがいプログラム 箱折り作業

市内の内職業者から受注している箱折り作業に参加。適度に力を加えたり、山折り・谷折りの組み合わせで脳の活性化が図れる(参加者談)生産的活動の為、従来集まりにくい男性の参加者が多いのが特徴。



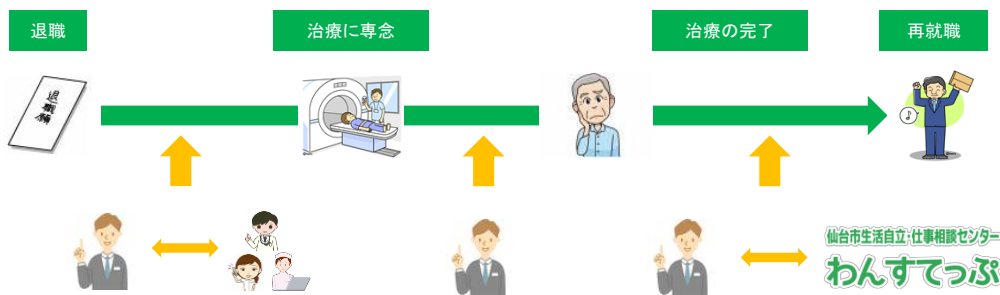
● がん患者に対する就労継続支援

仙台市市民協働提案制度

仙台市立病院との協働によるがん患者等に対する再就職支援及び就労継続支援協働事業 がん罹患者の「はたらく」を支える三つの支援 ①再就職支援～②職場復帰支援～③就労継続支援～

1. 再就職支援

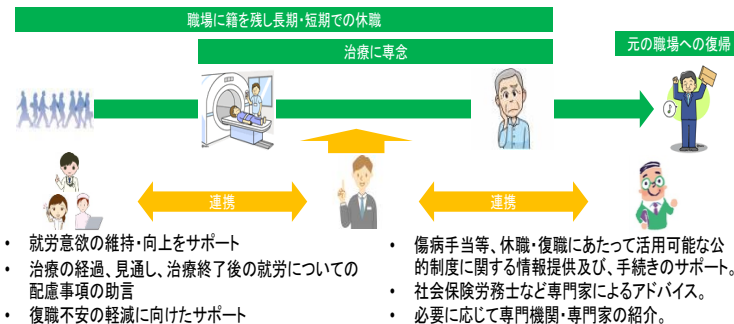
治療のために就労事業所を退職したが、治療後には就労可能な状況であり再就職を希望するがん罹患者に対して、伴走型の再就職支援を実施。



- 再就職意欲の維持に向けたサポート
- 治療の経過、見通し、治療終了後の就労の可否についての情報提供
- 就労にあたっての配慮事項の確認
- 相談者の就労に対する希望と課題の整理
- 一般労働市場の情報提供
- 就労までの支援計画策定の情報提供
- 仙台市生活自立・仕事相談センターと連携した就労支援の実施。
- 個別求人開拓と無料職業紹介事業の活用
- 就労準備支援事業の活用
- 職業体験実習の活用

2. 職場復帰支援

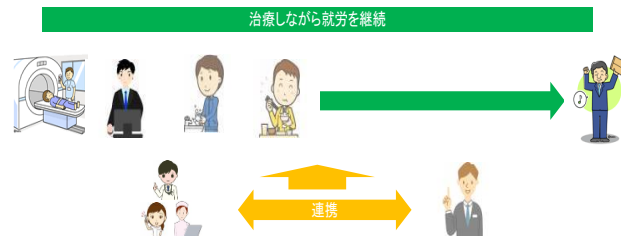
退職には至っていないが治療中は休職した上で治療に専念し、回復後に職場復帰を希望するがん罹患者等に対し、復職に向けた就労意欲の維持・向上や復職不安を軽減するための支援を実施する。



- 就労意欲の維持・向上をサポート
- 治療の経過、見通し、治療終了後の就労についての配慮事項の助言
- 復職不安の軽減に向けたサポート
- 傷病手当等、休職・復職にあたって活用可能な公的制度に関する情報提供及び、手続きのサポート。
- 社会保険労務士など専門家によるアドバイス。
- 必要に応じて専門機関・専門家の紹介。

3. 就労継続支援

治療を行いながら日常生活を送り、就労を継続するがん罹患者等に対し、治療と仕事を両立するために必要な助言など、就労継続及び離職防止に向けた支援を実施する。



- 治療・就労・日常生活上の不安解消に向けたサポート
- 治療の経過、見通し、就労継続にあたって必要な配慮事項の助言
- 就労継続・離職防止に向けた総合的サポート

最後に

- 『アウトリーチ＝訪問支援』に拘らない
- 訪問は対象者に会い、支援を届けるための一つ的手段
- 対象者に積極的に働きかける仕掛けづくりと考える
- 地域の特徴や得意な分野で行ってきたこれまでの取り組みをアウトリーチの視点で振り返り体系化する
- 潜在化するニーズや現場の肌感覚を客観的に実証して、ニーズや課題を解決するために取り組むための創造的な仕掛けづくりをアウトリーチの取り組みにつなげる

休憩：10分

パネルディスカッション：40分

●コーディネーター
立岡 学氏

●パネリスト
ト部 善行氏 / 佐藤 圭司氏 / 平井 知則氏

【テーマ】

- ① 対象者を発見・つながるためのアウトリーチ
- ② アセスメントのためのアウトリーチ
- ③ 支援のためのアウトリーチ
- ④ 地域づくりのためのアウトリーチ
- ⑤ 新たな課題の種を見つけるための（声にもなっていない声段階の）
アウトリーチ

グループワーク：45分

本講義のねらい

- 重層的支援体制整備事業におけるアウトリーチ等継続支援事業についての理解を深める
- アウトリーチ支援を実際に行っているアウトリーチ実践を聞きながら、具体的なアクションを理解する
- 明日からできるアウトリーチの行動目標を立てる

グループワークの進め方：45分

- ① 自己紹介（5分：1人1分程度）
* 市町の自慢／普段行っている支援内容／現在の困りごと

- ① 進行役／発表役を決めてください。

- ② （進行役）青・赤・黄色に記載した内容をグループ内で共有してください。
（20分：1人4分程度）

- ③ （個人ワーク）明日から始められる最初の一步とその理由を検討ください。（5分）

- ④ （発表役）どのようなことを検討されたかの共有を踏まえて、
発表役がグループで出た意見について、印象に残ったものを全体発表できるよう、
グループ内で調整・整理してください。（15分）

ワークシート

●個人ワークシート

参考になったこと	今の自分の地域では難しいと感じたこと	自分の思うアウトリーチ支援（行ってきたアウトリーチ支援を含む）
明日から始められる最初の一步		
上記を考えた理由		

●グループメモ

	明日から始められる最初の一步	その理由
●●市町		
●●市町		
●●市町		
●●市町		
●●市町		

休憩：10分

全体発表 (15分)

《 まとめ 》

- ① 自分がアウトリーチされる側だったらの視点
- ② 「福祉サービス当てはめ病」や「（制度という）使える道具がないときに、「できない」「仕方ない」を言ってしまっただけ支援者があきらめちゃう病と相談者をあきらめさせちゃう病」から、アウトリーチというほぼ何をやってもいい道具（制度）を使いこなす視点。
- ③ 『「困りごとがあればなんでも言ってください」と言われて、言えますか?』というメニューを具体的に示す視点
- ④ すでに動いている人や既存のサービスにある「人」・「もの」・「金」・「情報」を活用する視点
- ⑤ 質より量という視点

- ⑥ 「アウトリーチの達人 = 営業トップセールスマン」
営業トップセールスマンは売り込まず、常にお客様の課題や問題の解決をお手伝いする良き相談相手という視点。
- ⑦ アウトリーチをする人は施無畏者（恐れをなくしてあげる人）になる視点
- ⑧ doing的アウトリーチとbeing的アウトリーチの視点
ただ一緒にいるbeingの視点が大事ではないか
- ⑨ スカウトするアウトリーチの視点
- ⑩ 事前準備をしっかりとし、価値観のチャンネルをあわせ、
タイミングをはかり様々なセクターと協働し、創造していく視点
- ⑪ （一般的・自分の）常識を脇に置き、
『「今、まさにここにおいて・・・」はどうなのか?』を考える視点。

重層的支援体制整備事業の『アウトリーチ等継続支援事業』は
まさに今年からはじまったばかり！
ここにいる約50名の実践者がこの制度をつくっています。

皆さんは選ばれし、

「重層的アウトリーチ実践研究者」

故に、

「重層的アウトリーチ実践研究・交流発表会」
を来年やれたらおもしろいなあ～。

うまくいった、うまくいかなかった様々な皆さんのアウトリーチの実践を
明日から研究してほしいと思います。

厚生労働省挨拶

事務連絡